

## 学校経営の根幹にあるもの

○はじめに

校長として8年目（緑ヶ丘中学校5年・今津中学校3年目）になる。

その私が常に念頭に置いているものがある。

それは、『説明のできる結果を求める』だ。

そのためには、『目標』と検証可能な『挑戦の場』が必要であり、『公開：検証の場』が設定されなければならないと考えている。

### 【国や県の抱える教育的（教育に影響を与える等）な課題】

- ① 少子問題は『日本のあり方』に大きな影響を与える問題である。  
H26. 10月現在、全国の15才未満の子どもの数は、昭和57年から34年連続で減少し約1617万人である。また、総人口に占める15才未満の子どもの割合が12.7%と昭和50年から41年連続で低下している。  
なお、その割合が都道府県で最も高かったのは、沖縄県で17.5%。そして、最も低かったのは秋田県で10.8%であった。なお、大分県のそれは12.8%で九州最下位である。
- ② 2010年に比べ2040年には20～30代女性が半分以下になる
- ③ 2011年度まで14年連続自殺者3万人超え。現在2万7千人程度で推移。
- ④ 海外大学に挑戦する若者減少。また、日本の大学を選ぶ海外大学生の減少。
- ⑤ 県教委を舞台とした汚職事件。（H27年4月現在も係争中）  
特に、平成20年6月発覚した「県教委を舞台とした汚職事件」は、現在も係争中である。また、平成26年4月26日、新たに発覚した「学校現場における県教委実施の“県学力調査”不正問題（事前に問題を解かせる）」が起こっている。

### 【対策】上記カッコ内の各課題を考えたとき、

- ① 法令や心身の発達（特に卵巣）状態から“早すぎず・遅すぎない性”の啓発必要
  - ② このことが日本国に与える影響を小高学年・中・高校生等に伝えるべき
  - ③ 『“命をもって物事を変えようとしな”強くしなやかな態度』の養成を図る。  
まずは、“安全サイドに身を置き”、『法令や制度に訴える態度』の養成を図る。
  - ④ 中津ゆかりの偉人福澤諭吉の生き方に学び、『グローバルな人材育成』を図る。
  - ⑤ あらゆる教育活動を通して、『将来を見据え、本当に行きたい高校など上級学校や就職先を主体的に選択、受験し合格できる力』をつけさせる。  
また、これを進学力と呼び、中学校でつけるべき「真の学力」と位置づける。
- ①②30才台頃から卵子が減少傾向になる等子宮の仕組みの他「命と性」を学ぶ場を設定する。（専門家による講話など）

### 【学校経営方針に対するキャッチフレーズ】H27年度 今津中3年目

- 1年目『今津からのチャレンジ（挑戦）！』とにかく、何事にも怯まずチャレンジ。
- 2年目『チャレンジ！ステップアップ！！』昨年の自分や組織を少しでも超える。
- 3年目『チャレンジ！TED』思考力・判断力・表現力の“検証の場”を広げる。
- 4年目『IT'Sーナショナル（当然）』一流や高みを目指すことを当然と言え。

### 【意図して取り組むこと】

- “今津からのチャレンジ（挑戦）！”になるような課題を設定。
- チャレンジ（挑戦）できる課題としての場を設定。  
例えば『英語検定』や『今津中学校図書館主催読書感想文コンクール』等設定。
- 教師陣は『学び合いのある授業』改革に取り組むなど、生徒には、考える力をつけさせる機会を多く設定。
- その気（意欲）を喚起させる方策として、修学旅行先での『大学との出会い』や『2度の高校説明会』や『職場体験学習』等々を設定。
- H26. 10、グローバル企業であるトヨタ（株）九州人事部長による講話設定
- 生徒会は、H25年度、中津市教育長表彰を受賞した、昨年度で16回目を数えた歴史と伝統のある『地域清掃活動』『メモに頼らない意見発表』『ペットボトルキャップ回収』等々に挑戦！（チャレンジ）中。
- H26. 12. 12、今津中文化祭にて『英語スピーチ発表』を実施。
- 医療従事者による『命と性』に関する講話や養護教諭による性教育等、場の設定